令和８年度

「運営に関する計画」
中間評価まとめ

大阪市立中野小学校

令和８年１１月

大阪市立中野小学校　令和８年度　運営に関する計画・自己評価（総括シート）

１　学校運営の中期目標

現状と課題

○学級活動を３年研究し、令和４年度より特別活動と枠を広げ、児童会活動・クラブ活動・学校行事も加えて研究を進めてきたことにより、よりよい学級づくりだけでなくよりよい学校づくりをめざして自ら考え行動する児童を育てている。「自分たちで中野小学校をよりよくしていく」という気風が受け継がれている。また、高学年のリーダーにあこがれをもち、下学年のフォロワーシップも育ってきている。

○学級活動で学んだ話型を基本としてどの学習でも「話す・聞く」ことの態度を育てることに重点を置いて指導し、話しやすい学級集団作りを心がけている。その結果、小グループでは話し合うことはできるようになっているが、全体の場では、進んで自分の意見を表現することが苦手な児童もいるのでハンドサインなどを有効に活用している。

○学力面では、大阪市小学校経年調査の年度目標を全学年達成することができなかったが標準化得点にどの学年もほぼ近づいている。今年も確実に基礎・基本が定着する手立てと、教員の授業力の向上に向けて取り組んでいく。自主学習についてもいろいろな場面で保護者に伝え、子どもたちの意欲が継続できるよう学校全体で取り組んでいく。また、一人一台端末の活用が８０パーセントを超える日が令和７年度の中期目標 50%を超えることができた。一昨年までは、少なかったので教員の意識が高まったことと子どもたちとコメント欄を活用して考えを知ることができたのはよかった。

○体力面では、男女ともにどの学年も春よりも記録を伸ばすことができ、5 年生も男女とも体力合計点が全国平均を上回った。「スポーツが好き」という回答は、目標を下回ったので体育の授業や運動委員会の取り組みを工夫し、これからも外遊びを推奨し、なわとび・かけ足などを取り組む週間を設けて有効な運動のあり方を模索する。また、体の硬い児童が多いのでストレッチも今年度より加えて取り組んでいく。ゲーム領域では、学級活動で学んだことを生かして、チームでの作戦や運動について話し合い、学び合いができるよう引き続き授業改善を進めていく。

学年内で授業交換するなど学級担任だけでなくチームで子どもたちの学びを支え、担当する教科を減らすことで児童との関わりが持てる時間を増やし、働き甲斐のある職場づくりを推進する。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

基本的な方向１　安全安心な教育の推進

① 令和 11 年度の小学校学力経年調査における「困りごとや、不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談することができますか。」に対して肯定的に回答する児童の割合を７０パーセント以上にする。　R7＝63.4%

② 年度末の校内調査において、不登校児童の割合を前年度より減少させる。

③ 年度末の校内調査において、前年度不登校の児童の改善の割合を増加させる。

基本的な方向２　豊かな心の育成

④ 令和 11 年度の小学校学力経年調査における「自分にはよいところがありますか。」に対して肯定的に回答する児童の割合を８８パーセント以上にする。　R7＝83.6%

⑤ 令和 11 年度の小学校学力経年調査における「いろいろな国や地域の文化や言葉の違いを大切にし、困ったことや問題を解決するなどして、つながりを深めることができていますか。」に対して肯定的に回答する児童の割合を８７パーセント以上にする。　R7＝83.5%

２　中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

基本的な方向１　安全安心な教育の推進

① 令和８年度の小学校学力経年調査における「困りごとや、不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談することができますか。」に対して肯定的に回答する児童の割合を６５％以上にする。　R7＝63.4%

② 年度末の校内調査において、不登校児童の割合を前年度より減少させる。

③ 年度末の校内調査において、前年度不登校の児童の改善の割合を増加させる。

基本的な方向２　豊かな心の育成

④ 令和８年度の小学校学力経年調査における「自分にはよいところがありますか。」に対して肯定的に回答する児童の割合を８４％以上にする。　R7＝83.6%

⑤ 令和８年度の小学校学力経年調査における「いろいろな国や地域の文化や言葉の違いを大切にし、困ったことや問題を解決するなどして、つながりを深めることができていますか。」に対して肯定的に回答する児童の割合を８４％以上にする。　R7＝83.5%

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

基本的な方向４　誰一人取り残さない学力の向上

⑥ 令和８年度の小学校学力経年調査における国語の学力に課題の見られる（正答率 50%以下）児童の割合を、前年度より１ポイント減少させる。　R7＝19.1%　R8=18.1%へ

⑦ 令和８年度の小学校学力経年調査における「学級の友だちとの間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考えに気づいたりすることができていますか。」に対して肯定的に回答する児童の割合を７７％以上にする。　R7＝76.9%

⑧ 令和８年度の小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか。」に対して肯定的に回答する児童の割合を８７％以上にする。　R7＝86.7%

⑨ 令和８年度の小学校学力経年調査における「外国語の勉強は好きですか。」に対して肯定的に回答する児童の割合を８７％以上にする。　R7＝86%

基本的な方向５　健やかな体の育成

⑩ 令和８年度の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか。」に対して肯定的に回答する児童の割合を８５％以上にする。　R7＝83.6

⑪ 新体力テストの上体おこしの記録を全学年、年３回実施し前回よりも記録を上回る。

【学びを支える教育環境の充実】

基本的な方向６　教育 DX の推進

⑫ 令和８年度の小学校学力経年調査における「授業で学習用端末をどの程度使用しましたか。」に対して週３回以上と回答する肯定的に回答する児童の割合を５０％以上にする。

基本的な方向７　人材の確保・育成としなやかな組織づくり

⑬ 教員１か月あたりの平均時間外勤務時間を月４５時間以下とする。　R7＝28h04m（2 月）　R7 小学校平均＝22h10m（2 月）

基本的な方向８　生涯学習の支援

⑭ 令和８年度の小学校学力経年調査における「読書は好きですか。」に対して肯定的に回答する児童の割合を７６％以上にする。　R7＝75.9

3　本年度の自己評価結果の総括

大阪市立中野小学校　令和８年度　運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準　A：目標を上回って達成した　　B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった　　D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標１　安全・安心な教育の推進】 **基本的な方向１　安全安心な教育の推進** ・令和８年度の小学校学力経年調査における「困りごとや、不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談することができますか。」に対して肯定的に回答する児童の割合を６５％以上にする。　R7＝63.4 ・年度末の校内調査において、不登校児童の割合を前年度より減少させる。 ・年度末の校内調査において、前年度不登校の児童の改善の割合を増加させる。 **基本的な方向２　豊かな心の育成** ・令和８年度の小学校学力経年調査における「自分にはよいところがありますか。」に対して肯定的に回答する児童の割合を８４％以上にする。　R7＝83.6 ・令和８年度の小学校学力経年調査における「いろいろな国や地域の文化や言葉の違いを大切にし、困ったことや問題を解決するなどして、つながりを深めることができていますか。」に対して肯定的に回答する児童の割合を８４％以上にする。　R7＝83.5	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向１　安全安心な教育の推進】 心の天気やコメント欄、相談機能等を使って児童が先生や学校にいる大人に相談しやすい機会を増やす。	B
指標　令和８年度の小学校学力経年調査における「困りごとや、不安がある時に先生や学校にいる大人にいつでも相談することができますか。」に対して肯定的に回答する児童の割合を６５％以上にする。　R7＝63.4	
「心の天気」を活用し、日々子どもの気持ちや変化に気づけるようにしている。しかし、「心の天気」の入力が定着している学級とそうでない学級があり、改善が必要。	
取組内容②【基本的な方向２、豊かな心の育成】 友だちと協力して成し遂げる体験活動（異学年交流など）の機会を多くもつことによって自信をもち、自分のよさを発揮できる子どもを育てる。	B
指標　令和８年度の小学校学力経年調査における「自分にはよいところがありますか。」に対して肯定的に回答する児童の割合を８４％以上にする。　R7＝83.6	
評価　A→６人　B→９人 ・児童会活動（たてわり遠足・なかのまつり）や毎週の集会での異学年交流ができている。 ・高学年は低学年の見本となって行動しているし、低学年は高学年に憧れをもっている。 ・異学年と協働することで、よさを発揮できている児童がいる。 ・学年によって班の中の役割は違うが、みんなそれぞれの役割を果たしている。	

取組内容③【基本的な方向２、豊かな心育成】 　国際クラブの活動やいろいろな国や地域の文化を知り、つながりを深める活動を通して、多様な価値観や文化をもつ子ども同士が互いの違いを認め合い、高め合える教育を推進する。 指標　令和８年度の小学校学力経年調査における「いろいろな国や地域の文化や言葉の違いを大切にし、困ったことや問題を解決するなどして、つながりを深めることができていますか。」に対して肯定的に回答する児童の割合を８４％以上にする。 　R7＝83.5 評価　A→1 人　B→11 人　C→2 人 　国際クラブの活動を他の子どもたちは知らない、知る機会があまりないこと。中国にルーツのある児童だけでなく、他の国のクラブも必要ではないか、という課題がある。 　成果は国際クラブの活動を通して国の歴史や文化について知りつながりを深められている。定期的に活動していて、中国の先生と連携して楽しい活動ができている。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点

大阪市立中野小学校　令和８年度　運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準　A：目標を上回って達成した　　B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった　　D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標２**未来を切り拓く学力・体力の向上　】** **基本的な方向４　誰一人取り残さない学力の向上** ・令和８年度の小学校学力経年調査における国語の学力に課題の見られる児童の割合を、前年度より１ポイント減少させる。　R7＝19.1 ・令和８年度の小学校学力経年調査における「学級の友だちとの間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考えに気づいたりすることができていますか。」に対して肯定的に回答する児童の割合を７７％以上にする。R7＝76.9 ・令和８年度の小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか。」に対して肯定的に回答する児童の割合を８７％以上にする。　R7＝86.7 ・令和８年度の小学校学力経年調査における「外国語の勉強は好きですか。」に対して肯定的に回答する児童の割合を８７％以上にする。　R7＝86 **基本的な方向５　健やかな体の育成** ・令和８年度の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか。」に対して肯定的に回答する児童の割合を８５％以上にする。　R7＝83.6 ・新体力テストの長座体前屈を全学年、年３回実施し前回よりも記録を上回る。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向４　**誰一人取り残さない学力の向上　】** 実態把握をし、基礎基本の反復練習や発展学習ができるよう自主学習を全学年で取り組み学び方を身に着けさせる。	
指標　令和８年度の小学校学力経年調査における国語の学力に課題の見られる児童の割合を、前年度より１ポイント減少させる。　R7＝19.1	
評価→A１人　B11 人 ・毎週末、宿題で取り組み内容も工夫している。 ・家庭学習で基礎基本が身につき、積極的に取り組んでいる。 ・毎週自主学習マスターを選んで紹介することで意欲向上につながげている。 ・テスト前には、各教科の内容をテーマにして学習している。 ・一方で、学習内容に悩む児童が増えているため、取り組み方や内容の工夫が課題となっている。	B
取組内容②【基本的な方向４　**誰一人取り残さない学力の向上　】** 授業の中で、必ずペアトークや小グループでの話し合いの場を設定し、自分の考えをまとめて書いたり、発表ボードを使って発表したりして学びを深めあう。	B
指標　令和８年度の小学校学力経年調査における「学級の友だちとの間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考えに気づいたりすることができて	

いますか。」に対して肯定的に回答する児童の割合を７７％以上にする。R7＝76.9 評価　A→3 人　B→12 人　無記入→1 人 ○ほぼペアトーク、グループトークを取り入れている。 ○考えを深めることができている。 ○今の時点で８９パーセントと達成できている。 ●子どもによって、差がある。 ●少しずつできるようになってきた。	
取組内容③【基本的な方向４　誰一人取り残さない学力向上】 観察や実験を通して、生き物や化学に対する興味を持てるように、理科好きな子を育てる。 指標　令和８年度の小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか。」に対して肯定的に回答する児童の割合を８７％以上にする。R7＝86.7 評価　A→6 人　B→7 人 ・実験・観察を多く取り入れ、興味関心を引くよう工夫されている。 ・実験観察を通じて、実際に目で見て結果を知ることができる機会もあり、前向きに取り組めている。 ・楽しく理科を受けている。 ・興味を持ち理科の学習に取り組めている。 ・多様な実験で理科好きが増えている。 ・身近にある理科に気づき、観察や実験の方法を考えたり、予想した上で、調べている。 ・学習園をうまく活用している。 ・生活科で学習園を活用し、ダンゴムシや季節の草花だけでなく、バッタ・トンボ・カブトムシ等、観察して、見つけたよカードを増やしている。また、虫が触れなかった児童が、「さわれたー！」と喜んでいる。 ・肯定的回答は８６％で、指標は達成できていない。	B
取組内容④【基本的な方向４　誰一人取り残さない学力向上】 朝の外国語活動の充実・時間の確保、授業の中でコミュニケーションが取れる活動を必ず取り入れ、話すことに慣れさせる。 指標 令和８年度の小学校学力経年調査における「外国語の勉強は好きですか。」に対して肯定的に回答する児童の割合を８７％以上にする。R7＝86 評価　A→1 人　B→12 人　C→1 人 ・アンケートで肯定的に回答に回答した児童は 83%であり、4 ポイント足りない。 ・授業では英語の歌や物語、アクティビティを楽しんでいる。 ・朝の英語の時間が確保できていないクラスが多い。→何が原因かを把握する必要がある	B
取組内容⑤【基本的な方向５　健やかな体の育成】 ・体力向上に向けて体育科の授業や外遊びの工夫・改善を行う。 ・委員会活動の取り組みを通して年間運動をする機会を計画的に設ける。 指標 ・令和８年度の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか。」に対して肯定的に回答する児童の割合を８	B

５％以上にする。R7＝83.6
・新体力テストの上体おこしを全学年、年３回実施し前回よりも記録を上回る。

評価　A→人　B→１１人　C→１人
・８８パーセントで指標はクリアしている。
・楽しく前向きに運動に取り組めている児童が多い。
・休み時間に楽しく外で遊ぶ子は多い。⇔高学年になるとタブレットをして過ごす子も多い。
・天候の関係でポイントゲット週間を５日間行うことができなかった。
・雨の日が多かったので、室内で簡単に体を動かせる取り組みがあればいい。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点

大阪市立中野小学校　令和８年度　運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準　A：目標を上回って達成した　　B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった　　D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標３　**学びを支える教育環境の充実**】 **基本的な方向６　教育 DX の推進** 令和８年度の小学校学力経年調査における「授業で学習用端末をどの程度使用しましたか。」に対して週３回以上と肯定的に回答する児童の割合を５０％以上にする。 **基本的な方向７　人材の確保・育成としなやかな組織づくり** 教員１か月あたりの平均時間外勤務時間を月４５時間以下とする。 **基本的な方向８　生涯学習の支援** 令和８年度の小学校学力経年調査における「読書は好きですか。」に対して肯定的に回答する児童の割合を７６％以上にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向６　**教育 DX の推進**】 デジタル教科書やタブレット等 ICT を授業の中で多く取り入れ、観察したことや調べたこと等をまとめて発表できるようにする。 デジタルドリルやタイピング練習などを授業時間に取り入れる。	
指標 令和８年度の小学校学力経年調査における「授業で学習用端末をどの程度使用しましたか。」に対して週３回以上と肯定的に回答する児童の割合を５０％以上にする。	B
評価　A→１人　B→13 人 デジタル教科書を日々活用している。子どもたちがタブレットを活用できる単元と活用できない単元があり、毎日タブレットを使うことができていない。デジタル教科書やデジタルドリルは使っているが sky メニューを使う機会が少ない。	
取組内容②【**基本的な方向７　人材の確保・育成としなやかな組織づくり**】 毎週１回は、ゆとりの日を設定し、午後６時全員退勤をめざす。	
指標 教員１か月あたりの平均時間外勤務時間を月４５時間以下とする。	
A→2 人　B→9 人　C→3 人　無記入→1 人 ・毎週１回は、ゆとりの日を設定している。 ・ゆとりの日をもっと強調していく。 ・全員は退勤できていない。仕事量が多い。 ・意識して計画的に業務を行っている。 ・午後６時までに帰るようにしている。 ・個人の意識も高めていく。	B

取組内容③【生涯学習の支援】 　本をいつも読めるようにし、図書館開放や、読み聞かせ、本の紹介、読みたい本のランキングなど子どもたちが本に興味が持てるような活動を工夫する。	
指標 　令和８年度の小学校学力経年調査における「読書は好きですか。」に対して肯定的に回答する児童の割合を７６％以上にする。R7＝75.9	
評価　A→4 人　B→9 人 　図書館開放やブックトラックの定期的な入れ替え、図書委員会による読み聞かせなど、児童が本に親しむ機会を増やす取り組みを行った。また、本に展示方法を工夫し、児童が興味を持ちやすい環境づくりに努めた。 　その結果、図書館開放を楽しみにしている児童が多くみられ、特に雨の日の休み時間は多くの児童が利用するなど、読書への関心の高まりが感じられた。 読書に関する肯定的な回答の目標値を上回ることができ、本好きの児童の増加にもつながった。 　一方で、今後は高学年も楽しめる企画を取り入れるとともに、国語や社会の学習内容に関連する本を展示するなど、学習と読書を結び付けた取り組みを充実させていきたい。 　また、金曜日の図書館開放や各学級での読書タイムの設定についても検討し、より多くの児童が継続的に本に親しめる環境づくりを進めていく必要がある。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点